

通卷129号

# 山王

酉歲新春号





## 新春を迎えて

日枝神社氏子崇敬会長 小池 百合子

皇紀二千六百七十七年、平成二十九年の新春を迎え、皇室の弥栄と国運の隆昌を言祝ぎ謹んでお慶びを申し上げますとともに、日枝大神様の更なるご加護のもと、今年が良き年でありますよう祈念申し上げます。

昨年の熊本県を中心に発生した二連の地震により、お亡くなりになられた方々と被災されました方々に、改めてお悔やみとお見舞いを申し上げます。また、被災地の復旧・復興にご尽力されている方々に深く敬意を表します。皆様の安全と、被災地の日も早い復興をお祈り申し上げます。

さてこの度、日枝神社の氏子崇敬会第七代会長を拝命し、身の引き締まる思いであります。日枝神社は私にとりまして、隔年で斎行されます山王祭の神幸祭の折に、御巡行の鈴の音が聞こえると衆議院議員会館より外に目を向けた思ひ出のある神社です。由緒ある日枝神社氏子崇敬会の会長という重責を果たすべく努めてまいりますので、皆様からのお力添えをいただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年はリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開催され、いよいよ次の舞台は東京へと移ってきました。リオオリンピックでは史上最高のメダル獲得数を記録するなど、日本選手団の大活躍もあり、改めて大会の主役はアスリートの方々であると痛感いたしました。五輪開催地となるのは二度目の東京ですが、一度目の一九六四年の開催は、日本が敗戦から急速な復興を遂げ、国際社会の表舞台に復帰した象徴的出来事となりました。今回の五輪招致の際に掲げたのは『復興五輪』です。東日本大震災においては、甚大な被害が出ましたが、世界各国から多くの人的、物的支援を頂戴し、力強い励ましをお寄せいただきました。世界中からいただいたこのご恩への感謝の心と、震災からの復興、さらには、成熟した都市として、確立したインフラや安定した社会をアピールすることに大きな意味があると考えております。誰もが納得できる大会にすべく、引き続き課題解決に全力で取り組んでまいります。

本年は丁酉年ですが、相場格言では「申酉騒ぐ」と言われています。昨年十一月には、アメリカ大統領選でのトランプ氏勝利を受けて、経済面では景気回復への期待感が急速に高まり、円安ドル高、株高を示しました。東京も、かつての「アジア一の金融都市」に再び咲くべく、具体策を実行していく予定です。騒がしいのではなく、活気ある年にしてゆきたいものです。

最後に、この新しい年の国家の安寧と弥栄、日枝神社のご神徳の発揚とご社頭のご隆昌、氏子崇敬会の更なるご発展、また皆様のご健勝とご多幸を心から切に祈念いたしましたして、私の新年にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

## 新春祭典・行事のご案内

一月 一日(日)

午前零時 若水祭

神能「ひとり翁」奉奏

山階彌右衛門師 奉仕

午前八時 歳旦祭

一月 三日(火)

午前十時 元始祭

一月 六日(金)

午後二時 奉納書初展奉告祭

午後三時 山王奉書会(参集殿)

記念講演

講師 慶應義塾大学文学部

名誉教授 藤原茂樹 先生

一月 十三日(金)

午前十一時 印章護持祭

一月 十五日(日)

午前九時 月次祭

午前十時三十分 神符焼納祭

一月 二十一日(土)～二十二日(日)

神宮初詣旅行会

一月 二十四日(火)

午後六時 新年互礼会

二月 三日(金)

午前十一時三十分

節分祭追儺神事

## 特別寄稿



参議院議員

山谷えり子

皇紀二千六百七十七年、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎えるにあたり、天下泰平、国土安穩、聖寿無窮、万民豊稷を祈ります。

丁酉（ひのととせ）の本年は、ものがごとが頂点に達し、転換期を迎える年といわれています。

日枝神社さまの御神徳でもある万物の成長発展、産業万般の生成化育とも通ずるもので、皆様にとりまして明るく幸多き一年でありますよう祈念いたします。

米国では、今月二十日にトランプ大統領の政権が誕生いたします。

長い選挙戦の中では、その暴言や失言などが大きくとりあげられ、米国第一を掲げたトランプ氏でしたが米国国民が「変化に期待した」結果といえるでしょう。

経済で強いリーダーシップを発揮

してきた氏が大統領となつて進めていく政策は米国内だけではなく世界中に波及していくものであり、日本は主体性とダイナミズムをもつて信頼を強めていくことが大切と考えます。

国内においては、安倍総理のもと経済、外交・安全保障など着実な前進を遂げています。「守り」から「積極的な発信」への転換も進んでいます。

私が会長をつとめている党の伝統文化調査会でも、国家としての文化戦略を構築し、文化財のみならず食文化などの生活文化やアート、メディア芸術などを一体のものとして文化を幅広く捉え、いにしえから現代までつながる日本の精神文化を踏まえつつ魅力ある様々な日本を戦略的に発信するよう議論を加速化しています。

日本の文化力は、我々が想像するより遥かに高い世界の称賛を得てい

ます。

昨秋に、参議院日仏友好議員連盟でクールジャパンのイベントに参加するためにパリを訪れましたが、現地の役人や街中のカフェのウェイターなど、日本のアニメや漫画で日本文化に触れ、日本に興味をもち憧れているという若者が氣さくにカタクトの日本語で話しかけてくれ、行く先々で歓迎をうけました。

オリンピック憲章には、スポーツを文化と教育と融合させること、組織委員会が文化プログラムの実施の義務があることなどが掲げられており、四年後に迫った東京オリンピックを充実させていくことも責務と考えております。

最大の成功例とされる四年前のロンドン大会では、英国全土で一千か所以上、イベント総数は十八万件、総参加者数は約四千三百四十万人にのびりました。

その効果は、経済的なものだけでなく、特に若者の自国文化の誇りや自信の掲揚などにも好影響を及ぼしています。

東京大会にむけても、『文化プログラム等の機会を活用して、全国の自治体や芸術家等との連携の下、地

域の文化を体験してもらうための取組を全国各地で実施する。リオ大会（二〇一六）の終了後に、オリンピック・ムーブメントを国際的に高めるための取組を行い、文化プログラム実施にむけた機運の醸成を図る』ことが閣議決定されています。

文化プログラムの中でも、beyond 2020プログラムは、地域性豊かで多様性に富み、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムとして、国、地方公共団体、公益法人、企業等、全国各地の皆さんに、こぞつて参加いただきたいと願っています。

世界で最も長い歴史をもつ日本には、豊かな四季の中で育まれた幅広い文化があり、伝統を守りながらも、一方で新しい技術や発想をとりいれ発展させていく柔軟性もあわせもっています。

三年半後に迫った東京オリンピックは、その時だけの祭典ではなく、開催国日本にとつて、これまでの歴史を振り返り、後世へと繋げていく壮大な国家イベントでもあるのです。『その先へ』とわが国が力強く進むための輝かしいスタートであるように切に願いながら進んでいきたいと考えております。



# 山王祭山王車のゆくえ

江戸祭禮研究

山瀬 一男

平成廿八年六月の山王祭は記憶に新しい。元和元年に山王祭の行列が江戸城入城をはたし、以後四百年の時を経てまなお、賑いを見せる山王祭。徳川幕府二六〇年の間、神田祭と並んで後世天下祭と称され、各町から出される山車行列は東都最大の祭禮として様々な文献や錦絵にも遺されており、現在でも関東一円における地方都市の祭禮に影響し続けています。江戸期の山王祭は山車を中心とし、屋台・学びの仮装行列が加わった祭禮行列でしたが、明治になりかつての勢いを失っていきま

す。文明開化の影響は大きく、明治十五年に銀座にアーケ灯が灯り、その数年後に電線が敷かれさらに市中に市電が走るようになると、路上には市電の跨線が張り巡らされ、高さの必要な江戸の山車は次第に曳かれることが少なくなっ

ていきました。世間一般に「電線等の影響で山車を曳くことが出来なくなったため、大半の物が地方都市に売却されてしまった」と伝わっていますが、私が調べたところ、そのような要因での譲渡は、実際にはほぼ無いに等しかったようです。町のシンボルであった山車が曳かれることが少なくなっても、ほとんどの町々は、自町の山車を『江戸名物』と称して大切に保管していました。しかし、大正十二年九月

の関東大震災で多くの山車が焼失損失してしまつたのです。こうした中でも震災前に幾本かの山車は、縁あって譲渡されていきました。今回のコラムでは、かつて山王祭で使われていた山車がどこに譲られて行つたのかを取り上げていきたいと思います。それぞれの山車を詳しく述べることは、紙面の都合上別の機会といたします。



佐倉市上町 日本武尊の山車



佐倉市横町 石橋の山車

のお陰で多くの山王祭の山車が現存しています。

## 山王祭廿七番 『日本武尊』

人形師 二代目仲秀英作

日本橋の萬町・青物町・元四日市（現日本橋一丁目）で使用。明治十三年九月に佐倉市上町に委譲され、現在も佐倉で曳かれています。（山王第一二五号参照）

## 山王祭廿五番 『石橋』

人形師 古川長延作

日本橋の上横町（現八重洲一丁目東）で使用。明治十二年佐倉市横町に委譲され、現役で曳かれています。昨年山王祭に里帰りし、日本橋界隈を曳き廻しました。

## 山王祭廿一番 『竹生島龍神』

人形師 横山朝之作

日本橋の通油町・新大坂町・田所町（現日本橋富沢町）で使用。明治十二年に佐倉市肴町に委譲され、現在は人形と上高欄及び山車の部材の一部が遺されている。

## 山王祭廿五番 『玉ノ井龍神』

人形師 不明

日本橋の檜物町（現八重洲一丁目東）で使用。明治十二年に佐倉市二番町に委譲され、人形と上高欄が遺されている。

## 『埼玉県加須市』

山王祭廿一番 『羅陵王』

## 《千葉県佐倉市》

江戸期、佐倉藩歴代の藩主は、幕府の老中職を勤めるなど江戸との繋がりが強く、明治初期には日本橋界隈を走り回って山王祭の山車を譲り受ける立役者がおり、その活躍



佐倉市二番町 玉ノ井龍神人形



加須市本町 羅陵王の山車



石岡市金丸町 弁財天人形



佐倉市肴町 竹生島龍神人形

人形師 仲秀英作  
日本橋の通油町・新大坂町・田所町(現日本橋富沢町)で使用。明治十六年に加須市本町に委譲。  
『羅陵王』は、文久二年に新造されたもので、明治十年代にこの日本橋界隈で災害があつた時に加須の人々が惜しめない協力をしたため、お礼として加須に譲ることになつたと伝わっています。特筆す

べきは、各地に委譲された山車は、地元で手が加えられ改装されることが多いのです。が、この加須の『羅陵王山車』は日本橋に在った時のまま手が加えられることなく遺されていることです。昨年の山王祭では、加須市本町のお囃子連によるお囃子の奉納をしました。

《茨城県石岡市》

山王祭七番『弁財天』

人形師 古川長延作  
日本橋本町四丁分・岩附町・本革屋町・金吹町(現日本橋室町二丁目・日本橋本町)

で使用。大正十年に石岡市金丸町に委譲され、現役で活躍中です。日本橋魚河岸の有力者が尽力し、石岡への委譲が叶つたと伝わっています。

二人の静

《栃木県栃木市》

山王祭九番『静御前』

人形師 松雲齋徳山作  
日本橋瀬戸物町・小田原町・伊勢町(現日本橋室町一丁目)で使用。明治七年栃木市倭町に委譲され、現在は二年に一度の栃木まつり(十一月)で曳き出されています。

《東京都青梅市》

山王祭九番『静御前』

人形師 松雲齋徳山作  
日本橋瀬戸物町・小田原町・伊勢町(現日本橋室町一丁目)で使用。明治中頃に青梅市仲町に委譲され、現在は青梅大祭(五月)で人形のみが会所に飾られています。

瀬戸物町・小田原町・伊勢町は、関東大震災まで江戸の台所とも言うべき魚河岸があつた場所です。魚河岸では、一日千両が動くと言われた財力のある町々でした。ここでは、祭禮で山車を二〜三度使



栃木市倭町 静御前の山車



青梅市仲町 静御前人形



渋川市裏宿 日本武尊の山車 (日本橋では猿の人形)

用すると「古くなった」という理由で同じ出し物を新調するという、魚河岸の財力が伺われる話しが伝わっています。同じ日本橋の町々から、同じ人形師の手がけた二人の静御前が、栃木と青梅に遺るといふ奇跡のような話しなのです。

《群馬県渋川市》

日本橋通三丁目『猿』

江戸期の山王祭で、日本橋一丁目から四丁目では、一本の山車『神功皇后』を使用していました。明治中期に日本橋通三丁目(現日本橋二丁目・三丁目)では『猿』の山車を新造して使用しましたが、大

正三年に渋川市裏宿町に委譲され、二年に一度の祭禮で曳き出されています。(現在は日本武尊人形に変わっています)

前述、山王祭で使用されていた山車・出し人形を紹介しましたが、この他に日枝神社宝物殿には『神功皇后』『応神天皇・武内宿禰』『土佐坊』人形が遺っており、千代田区資料館には『てけてん小僧』が保管されています。この四体の山車人形は、麴町各町で使用されていたものです。

結びに

近い将来、こうした山王祭にゆかりのある山車を集め、山王祭の神幸祭行列に加えら

れたなら、往時の江戸祭禮を再現できるのではないだろうかと思われています。次第です。山車人形のみ遺されているものについては、いずれかの展示場に飾り、ご覧いただければなお良いでしょう。更に欲を言えば、かつての天下祭には『学び』という仮装行列も

附祭にあつたわけですから、そのような出し物も加えられたい、なお一層のこと、江戸の山王祭を再現することに一役買うことになるであろうと思っています。

今回の山王祭は平成三十年。この年は、皇城の鎮である日枝神社祭禮(山王祭)にとって節目の年になります。

東京奠都百五十年の年。遷都ではなく京都を都として残り、政治経済の都として東京へ奠都して百五十年の歴史を刻んだわけです。

明治期には『東京奠都三十年』の奉祝行事が東京市中を挙げて行われ、さらに『奠都五十年』の奉祝行事も行われました。

来たる「奠都百五十年」、東京と共に歩んできた日枝神社と山王祭にとってこの節目の年に、かつての山王祭の現存している山車も一同に参加できたなら、それこそ東京随一の大祭になるに違いないと大きな夢を見続けています。

日本橋住人記す

讀みて新年の御祝詞を申し上げます



頃 春 平成二十九丁酉歳

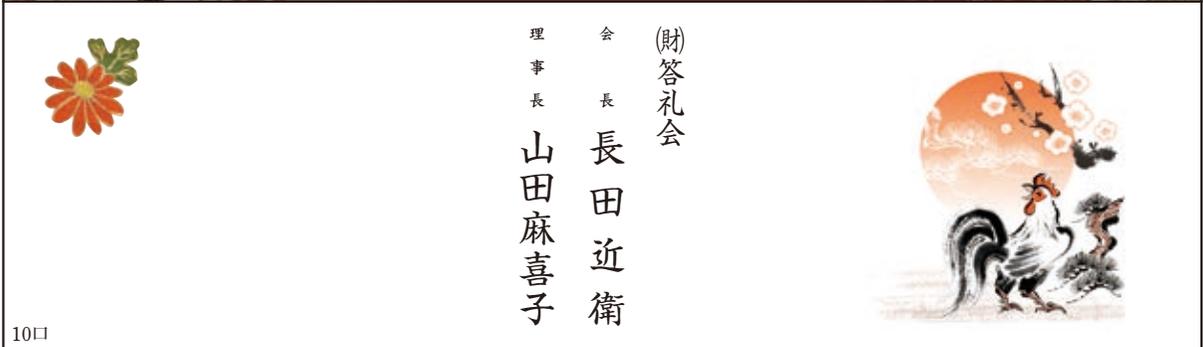
日枝神社

- 代表役員 宮西修治
- 宮司 細田安兵衛
- 責任役員 中澤彦七
- 同 福原義春
- 同 大澤忠政
- 同 泉 邦夫
- 同 澤田晴子
- 同 高木 茂
- 責任役員 大塚正行
- 権宮司



**謹 賀 新 年**

順不同敬称略



10口	(有)山の茶屋 <b>遠藤恒夫</b>	(株)山王熱供給(株) 代表取締役社長 <b>津曲荒太</b>	(株)永田町・霞ヶ関 <b>平河町</b>	(株)オンズホールディングス 代表取締役 <b>新井健太郎</b>	マネックス証券 <b>松本大</b>	(株)ぬ利彦 代表取締役社長 <b>中澤彦七</b>	(株)飲食文化総研 レストラン黒澤グループ 代表取締役 <b>丸 総子</b>	(株)ザ・キャピトルホテル東急 総支配人 <b>行澤博史</b>
	(株)ニュー・オータニ 代表取締役社長 <b>大谷和彦</b>	(株)泉屋東京店 代表取締役社長 <b>泉 邦夫</b>	(株)植むらフーズ 代表取締役 <b>十文字弘美</b>	(株)アルファビデオ 代表取締役 <b>青山裕生</b>	(株)山王むらさき会 会 長 <b>清水威人</b>	(株)荻原秀夫 <b>荻原秀夫</b>	(株)日枝神社四葉会 <b>日枝神社四葉会</b>	(株)伊勢半本店 代表取締役社長 <b>澤田晴子</b>
	(株)シャングレーライン 代表取締役 <b>眞下慶一郎</b>	(株)シヨウ・コーポレーション 代表取締役 <b>堀切健司</b>	(株)麴町・紀尾井町 <b>麴町・紀尾井町</b>	(株)清水隆商店 代表社員 <b>清水昭治</b>	(株)伊勢半本店 代表取締役社長 <b>澤田晴子</b>	(株)桜井食品 代表取締役社長 <b>桜井 勉</b>	(株)大手町・丸の内 代表取締役 <b>内幸町・有楽町</b>	(株)柴田哲義 恭代 柴田税理士事務所 SHIVAヘリタンススタジオ
	(株)泉吉(株) 代表取締役 <b>岸本昌子</b>	(株)東宝(株) 名誉会長 <b>松岡 功</b>	(株)千修 代表取締役社長 <b>下谷友康</b>	(株)田中康博 <b>田中康博</b>	(株)伊勢半本店 代表取締役社長 <b>澤田晴子</b>	(株)桜井食品 代表取締役社長 <b>桜井 勉</b>	(株)成田弘子 代表取締役 <b>成田弘子</b>	(株)神崎浩昭 代表社員 <b>神崎浩昭</b>

**頌 春**  
 平成二十九丁酉歳  
 日枝神社  
 大総代 遠藤恒夫  
 関口弥寿雄  
 笠井清純  
 田中康博  
 池田新二  
 清水昭治  
 岡村好貴  
 松岡 功  
 野永喜一郎  
 安西暉之  
 布施 徳  
 三枝 進  
 小坂 敬  
 北見芳夫  
 木村暖子  
 安倍洋子  
 羽田宇男  
 溝口喜文  
 細田 眞  
 亀岡恒方



謹 賀 新 年

順不同敬称略

総合建設業 (株)CMC 代表取締役 <b>高橋悦郎</b>	(株)フエム 代表取締役 <b>藤田 誠</b>	鈴木徽章工業(株) 取締役会長 <b>鈴木健之</b>	(株)ミロク情報サービス 代表取締役 <b>是枝周樹</b>	(株)なだ方 代表取締役 <b>木浦信敏</b>	きねや足袋(株) 代表取締役 <b>中澤貴之</b>	(株)井筒装束店 代表取締役 <b>浅田茂樹</b>	(株)錦屋マリエマリエ 取締役社長 <b>勝田久美子</b>	(株)信英堂 代表取締役 <b>桜井俊一</b>	(株)フオーシーズ 代表取締役 会長兼CEO <b>浅野秀則</b>	(株)木村屋総本店 代表取締役 社長 <b>木村光伯</b>	佐藤産業(株) 会長 <b>佐藤太美雄</b>
			朝日総業(株) 代表取締役 <b>池本なぎさ</b>	(株)丸井スズキ 代表取締役 <b>鈴木貴博</b>	(株)キョウエイアドインターナショナル 代表取締役 社長 <b>松岡雅昭</b>	(株)ミカミ 代表取締役 <b>三神裕継</b>	日本ビダヤコム(株) 代表取締役 社長 <b>東郷英二</b>	安全自動車(株) 代表取締役 <b>中谷宗平</b>	中西瀝青(株) 相談役 <b>野玉善一</b>		

桃川(株) 東京支店 キンシ 正宗(株) 和田酒造 合資会社 山梨 銘醸(株) 江井ヶ嶋酒造(株) 櫻正宗(株) 東京支店 樽平酒造(株) 七笑酒造(株) (株)山本本家 日本盛(株) 東京支店 (株)佐浦 舞姫酒造(株) (株)ちくま食品 ヒガシマル醤油(株) 奥の松酒造(株) 大信州酒造(株) 黄桜(株) 東京支店 白鷹(株) 東京支店	谷櫻酒造(有) (株)六歌仙 菊正宗酒造(株) 豊島屋酒造(株) 岩村醸造(株) 月桂冠(株) 東京支店 田村酒造場 (株)本田商店 白鶴酒造(株) 東京支店 石川酒造(株) (株)今田酒造本店 富久娘酒造(株) (有)金井酒造店 醉鯨酒造(株) 福徳長酒類(株) 鍋徳店 土佐鶴酒造(株) 北の誉酒造(株)	(株)家久長本店 林龍平酒造場 サツポロビール(株) 天鷹酒造(株) 千代の園酒造(株) 中国醸造(株) (株)小山本家酒造 (株)榊田酒造店 (株)吉乃川 東京支店 (株)矢尾本店酒つくりの森 枋倉酒造(株) 太田酒造(株) 高井酒造(株) (株)北雪酒造 アサヒビール(株) 近藤酒造(株) 菊水酒造(株)	山王むらさき会 (株)三 清月堂本店 (株)フエム (株)セレニウムダクターズ (株)代 (株)アルファビデオ (株)伊勢 (株)泉屋 東京店 サロン・ド・ベル 日本旅行公務法人営業部 (株)三越伊勢丹 (株)マイプリント (株)丸菱 (株)日本橋高島屋 (有)トリーシン (株)三越伊勢丹	酒は、これを神々に献り、その撤下をいたたく事によつて、 うつつとした気持ちが晴れやかなる百葉の長です。 当日枝神社の御祭神大山咋神は、古来、酒を司らせ給う東都の酒神と 厚く信仰せられるところでありませぬ。	平成二十九年例祭献酒醸造元芳名 (順不同・敬称略)
--	---	---	---	---	---------------------------

監 事 溝口喜文 同 茂木七左衛門 同 立石晴康 同 内田 茂 同 武井雅昭 同 矢田美英 同 石川雅己 同 泉 邦夫 同 澤田晴子 同 高木 茂 同 松岡 功 同 大澤忠政 同 福原義春 同 中澤彦七 同 細田安兵衛 同 小池百合子 同 石原慎太郎 同 名譽会長 同 日枝神社氏子崇敬会	順 春 平成二十九年酉歳
--	-----------------



## ユネスコ無形文化遺産

## 「山・鉾・屋台行事」と江戸山王祭

武蔵大学 教授 福原敏男

昨年十二月、関東では主に山車祭<sup>だし</sup>と称される「山・鉾・屋台行事」(地図③三行事)が、国連教育科学文化機関(ユネスコ)無形文化遺産に一括登録された。日本の祭礼が世界に認められたことを誇りに思う。今回の登録に際し、地図②の京都祇園祭を始めとする山・鉾・屋台という名称が山車・だんじり・曳山などの総称として採用されたのである。

この三三行事は氏子を中心とする大規模都市祭礼であり、すでに国指定重要無形民俗文化財となっており、その裾野には全国的に約一千五百件の祭礼が確認されている。

多くの都市部において、これらが神輿渡御の前後を巡行する神賑として、祭りを造形的・色彩的に飾り、音曲で囃し、さらには夜間には光輝いて、彩ってきたのである。その信仰的意味としては、地域の安寧や災厄除けを願い、神霊の依代(憑依物)

とも考えられてきた。

京都祇園祭や津島・博多(地図①⑨・⑳)は中世まで遡る祭礼であるが、ほとんどの山・鉾・屋台類は、江戸時代以降、各地で成立した政治都市である城下町などに現れた。「練り物」や「通り物」と呼ばれる仮装行列、歌舞や囃子中心の祭りのなかから、各地の都市住民(町人)が山・鉾・屋台類を選び取っていったのである。

多くの夏祭りにおいて流行、蔓延する恐ろしい疫病(その因と考えられた疫神)や眠気を山・鉾・屋台類に憑け囃し立てて、町の外に退散してもらおう信仰が基層にあった。

その一方、都市住民は郷土愛を背景に祭りに熱狂し、山・鉾・屋台はそのシンボル、各都市の独自の顔として作られ、町人の財力、職人や芸術家の技術・技能が注ぎ込まれた。歴史的には、定番のテーマに加え、

流行やニュースを山鉾の人形などに仕立てた毎回新作の趣向から、動く美術館などと呼ばれる固定的なものへと変遷したのである。

山・鉾・屋台行事は拠点となる城下町の祭礼などを中心に、藩域や街道筋を範囲として広がり、独特の祭礼文化圏が形成されている地域もある。例えば、博多祇園山笠行事の周辺においては、櫛田神社の行事が伝播して類例が分布している。このように、権力により上から伝播・浸透したり、人・物・情報の交流によって地域的類型圏を有する祭礼群は数多い。

関東の祭礼文化圏の最大拠点として、徳川権力の御用祭であった当社山王権現の江戸山王祭が挙げられる。山王祭は神田祭と隔年に執行され、この二祭の行列のみが江戸城に入り、北の丸で将軍・重臣の上覧を受けた。特に山王祭上覧は寛永十二年(一六三五)より幕末まで行われた。祭日は旧六月十五日を中心とする盛夏の祭りであり、祭礼行列は神輿、町方による山車・附祭・御雇祭、町奉行や諸藩武家による警固・供奉からなる。

山王社氏子百四十七か町より、山車番組四十五組が組織され、隔年に

五十本程の山車が、公的に定まった城内ルートと目町を中心とする任意のルートを巡行したのである。「山車」の語は近代以降の東京発信語であり、江戸期には「出し(シ)」と表記される造形物の頂部を指す部分名称であった。江戸の山車は二輪の台車中央に一本柱を立て、その上に傘鉾、吹貫、万度、万灯、額、人形、勾欄、波形(流水)、枝垂れ、花笠など様々な飾りを設け、中心柱の周りに幕を張る造形物も多い。江戸の場合、地形の高低差が大きく、山王祭は特に広域氏子圏であるため、一〜二頭の牛に曳かせた。幕末になると、一本柱に加え、台車上に二層の櫓(一本柱を中心とした四隅)構造を設け、上層に人形と勾欄を据える三層の山車が登場した。帝都東京のインフラ整備などハード面の要因により、明治二十年代前半、東京市内の山車文化は衰退していったが、江戸から明治前期にかけて、山王祭の山車や附祭文化は関東地方に留まらず、各地に大きな影響を与え続けたのである。

現在の山王祭神幸祭においても、諫鼓鳥・花山車(二本柱型)・美少年山車・烏帽子御幣猿山車・牛若弁慶山車、東郷元帥の山車などが復活

# ユネスコ無形文化遺産登録

## 「山・鉾・屋台行事」(33行事)



- ①八戸三社大祭の山車行事 (青森県八戸市)
- ②角館祭りのやま行事 (秋田県仙北市)
- ③土崎神明社祭の曳山行事 (秋田県秋田市)
- ④花輪祭の屋台行事 (秋田県鹿角市)
- ⑤新庄まつりの山車行事 (山形県新庄市)
- ⑥日立風流物 (茨城県日立市)
- ⑦烏山の山あげ行事 (栃木県那須烏山市)
- ⑧鹿沼今宮神社祭の屋台行事 (栃木県鹿沼市)
- ⑨秩父祭の屋台行事と神楽 (埼玉県秩父市)
- ⑩川越氷川祭の山車行事 (埼玉県川越市)
- ⑪佐原の山車行事 (千葉県香取市)
- ⑫高岡御車山祭の御車山行事 (富山県高岡市)
- ⑬魚津のタテモン行事 (富山県魚津市)
- ⑭城端神明宮祭の曳山行事 (富山県南砺市)
- ⑮青柏祭の曳山行事 (石川県七尾市)
- ⑯高山祭の屋台行事 (岐阜県高山市)
- ⑰古川祭の起し太鼓・屋台行事 (岐阜県飛騨市)
- ⑱大垣軸祭の行事 (岐阜県大垣市)
- ⑲尾張津島天王祭の車楽舟行事 (愛知県津島市・愛西市)
- ⑳知立の山車文楽とからくり (愛知県知立市)
- ㉑犬山祭の車山行事 (愛知県犬山市)
- ㉒亀崎潮干祭の山車行事 (愛知県半田市)
- ㉓須成祭の車楽船行事と神葎流し (愛知県蟹江町)
- ㉔鳥出神社の鯨船行事 (三重県四日市市)
- ㉕上野天神祭のダンジリ行事 (三重県伊賀市)
- ㉖桑名石取祭の祭車行事 (三重県桑名市)
- ㉗長浜曳山祭の曳山行事 (滋賀県長浜市)
- ㉘京都祇園祭の山鉾行事 (京都府京都市)
- ㉙博多祇園山笠行事 (福岡県福岡市)
- ㉚戸畑祇園大山笠行事 (福岡県北九州市)
- ㉛唐津くんちの曳山行事 (佐賀県唐津市)
- ㉜八代妙見祭の神幸行事 (熊本県八代市)
- ㉝日田祇園の曳山行事 (大分県日田市)
- はH21(2009)ユネスコ無形文化遺産に登録

事例も含めて、健在であるのは喜ばしい。

山・鉾・屋台行事は江戸期以来の各地の中核都市を拠点としており、まさに現在求められている「地方創生」の時代を代表する祭礼群である。これらは明治維新以降、電線架設や路面電車敷設など都市のインフラ整備、戦災や関東大震災などの自然災害と復興、高度経済成長、モータリゼーション、観光などにより大きな変化を余儀なくされた。祇園祭とともに、「日本三大祭り」と並び称せられた、山王祭・神田祭、大坂天神祭は近代以降、首都・経済中心都市を舞台とする祭礼として大きな変貌を被らざるを得なかった。近代化、都市化のなかで、三三行事は奇跡的にも命脈を保った祭りなのである。

参考文献  
植木行宣・福原敏男  
『山・鉾・屋台行事―祭りを飾る民俗造形―』  
岩田書院 二〇一六年



# 日本橋茅場町 撰社日枝神社

## ホームページ完成

古くから下町の山王さんと親しまれている「撰社日枝神社」も  
 年々増加しているご参拝の方々に情報を発信するため公式 HP を開設しました。  
 今後も随時更新します。



**撰社日枝神社**

〒103-0025  
 東京都中央区日本橋  
 茅場町1丁目6番16号  
 問い合わせ 03-3666-3574



<http://www.hiejinja.net/sessha/>

### ●●●●● 御祈禱の受付電子化をはじめました ●●●●●

御祈禱をお受けになる方々の便に供するべく、HP  
 上に「御祈禱情報入力フォーム」を新設しました。

このフォームで御祈禱の内容や御祈禱を受けられ  
 る方のお名前等必要事項を入力いただくと、当日に  
 申込書の記入が不要になる事前登録システムです。

是非御活用下さい。



# 八坂神社 猿田彦神社御社殿 修復工事 竣工



末社八坂神社(相殿) 猿田彦神社)は明治十九年に当社境内地に修営、御社殿は昭和二十年五月の東京大空襲により焼失し、昭和四十一年に再建。以来五十年の長い年月を経て風雨による損傷激しく、この度百三十年の佳節にあたり、氏子御崇敬各位の御奉賛を仰ぎ、修復工事を行いました。

二月十四日仮殿遷座祭、約

## 修復事業奉賛者芳名(順不同 敬称略)

### 金参佰萬圓也

清水建設(株)

### 金貳佰萬圓也

(株)ジョー・コーポレーション  
代表取締役 堀切健司

山田敏夫・秀子

### 金老佰萬圓也

(株)エココロ・インターナショナル  
代表取締役社長 原村昌利

佐藤茂子

三ヶ月の修復工事を終え、五月三十一日に本殿遷座祭を執行。六月七日、八坂神社例祭に併せ竣工奉祝祭を多数の氏子崇敬者参列のもと執り行いました。

今回の修復事業に併せ神饌所と御垣を新たに整備することが出来ました。

御奉賛頂きました御崇敬各位には改めて紙上をもって御礼申し上げます。

### 金六拾萬圓也

(株)兎和デイスブレイ

### 金伍拾萬圓也

東京炭素工業(株)

畑 照子

### 金四拾萬圓也

平和不動産(株)

代表取締役社長 岩熊博之

興国インテック(株)

代表取締役 岸本昌子

### 金参拾萬圓也

松田真由子

(株)帝国ホテル

(株)小松ストア

代表取締役 小坂 敬

(株)TRIPLE

代表取締役 手塚秀樹

(株)フォーシーズ

代表取締役会長兼CEO 浅野秀則

今村孝司

武蔵ビル・(南)丸徳武蔵 石田善計

安藤正太良

吉川瑛子

(株)ストーントラスト

田中康博

笠井清純

谷畑悠昭

東京山王ロータリークラブ

(株)丸井スズキ

(株)日本橋錦豊琳本店

日枝神社奉賛青年会

若林治男

### 金貳拾萬圓也

彌生興業(株)

代表取締役 長谷川尚功

四條隆彦・丸山靜香

八丁堀三丁目西町会 天祖神社

(株)メディアム

六本木忠久

和田隆之

天声おまかせ道場

後藤拓大 東京つどい一同

糺町惣町睦会

(株)アルファビデオ

代表取締役 青山裕生

(株)テス コーポレーション

代表取締役 田中康雄

鈴木徽章工芸(株)

代表取締役社長 鈴木敬二

羽田幸代  
ザ・キャビトルホテル東急  
総支配人 行澤博史

ナリタ美容室

(株)錦屋マリエマリエ

つきじ植むら 山王茶寮

朝日稲荷神社

(株)コムックス・ウエーブ・フィルム

東京急行電鉄(株)

清水雄二

中原卓治・頼幸

日下部昭子・静江

鮫島正繼

松尾ふみ江

野玉善一

京橋一の部連合町会

銀座七丁目町会

安全自動車(株)

山王リアルエステート(株)

代表取締役 中谷宗平

小川晶子

(株)日本スポーツエージェンツ

古屋博史

(株)大澤ローヤル

代表取締役 大澤忠政

(株)高島屋日本橋店

(株)オルファス

飯島正人

(株)西武プロパティーズ

田中 實

上野真也

(株)東京會館 取締役社長 藤原幸弘

(株)明治屋

(株)ヤクルト本社

味の素(株)

森田定亮

橋本 久

(株)秩父屋材木店

代表取締役 宮城良治

大塚由佳

東宝(株)

東京中央青果(株)  
代表取締役社長 石川勲

小川昌美

日枝神社奉会

関口弥寿雄

(株)木村商店

日本橋吉野鮪本店

(株)ぬ利彦 代表取締役 中澤彦七

東京建物(株)

(株)泉屋東京店

代表取締役社長 泉 邦夫

東京シテイ青果(株)

代表取締役社長 鈴木敏行

日本水産(株)

代表取締役社長 細見典男

増田良一

(株)伊勢半本店

代表取締役社長 澤田晴子

合資会社 北見商店

北見芳夫・まさ系

関 秀子

大田實則

榮太樓總本舗 細田安兵衛

佐藤タニ子

(株)ニユー・オータニ

代表取締役社長 大谷和彦

日枝御防講

三菱地所(株)

日本橋七之部連合町会

新設された神饌所



新設された神饌所

茅場町一丁目町会  
茅場町二丁目町会  
兜町町会  
㈱金陽社印刷所

代表取締役 細田 剛  
司法書士さくら法務事務所  
代表 関 次郎

Suda Manter Field Consulting Ltd.

福原義春  
青木謙二郎

浅井吉昭・孝子  
関 太郎

小林万里  
小林久子

㈱レイ  
日置千弓

山田有美  
山田宜良

多賀富ゆわ  
㈱聡真会

塩野目明  
理事長 小柳聡

金壹拾伍萬圓也

関典子・ひかる・光輝

金壹拾萬圓也

宮西惟道

㈱シミズ・ビルライフケア  
代表取締役社長 野上 勇

神明氷川神社 宮司 眞壁惠龍  
玉前神社 宮司 栗原崇次  
信和義塾大學校 ㈱ゴクウ

中野 博  
榎見詔正一  
中井賢吉  
桜井直子  
田中康生

金伍萬圓也

友田美由紀

新井眞智子  
㈱マルタマフーズ

渡邊裕忠  
小淵 進

安藤蓉子  
上代 清

㈱花田美術  
吉山照香

宮越隆政

金參萬伍千圓也

今泉元喜

金參萬圓也

㈱彩電工芸 羅田秀顕  
城 由紀

西川和江  
野武幸子

阿部哲夫  
清宮厚子

医療法人社団A歯科タニグチ会  
高柳多美

飯嶋芳子  
中村弘江

黒澤功記

金貳萬圓也

御園織衣

御園紀子  
小寺加奈子

君嶋俊章  
平石耳鼻咽喉科

㈱藤井工業東京支店  
高尾駅前歯科室 濱 和彦・恵理子

守重あや子  
守重直美

花島くみ子  
花島文夫

伊藤良記  
㈱一富士

代表取締役 富依咲木子

関 祥江  
関 武洋

北原あや子  
金子邦男

金子榮子  
三谷博保・ヨシ子

神原祥彦・茉莉加  
春野珠華

片平智恵

金壹萬伍千圓也

三浦達雄・白雄・雄吉  
サンバード㈱

代表取締役 佐藤 昭  
我善導  
富士康伸

片山たつ子

門田真乍子  
西脇 修

谷口八季  
勝部盛行

小林悦子  
入澤 肇

藤枝修一  
八木正人

小野間美智  
辻井美江子

日下部 聡  
大津 勸・章子

濱田由範  
清水 孝・由紀子・日向子

高橋美樹子  
野口博明

黒川正人  
大内一恭

中村珠江  
石川真吾

浅賀敏幸  
三井所隆史

稲葉文字  
小原朋子

西 芳弘  
八塚淳子

㈱龍宝 前島浩美  
木村 薫

成茂祐樹  
合同会社エース

石井美樹  
林 真司

村野豊子  
高橋鉄二

高根由佳  
沼上ちさ子

田嶋光夫  
田嶋啓人

守重俊昭  
大里美代子

アベメンテナンス㈱  
伊佐正

伊佐ひさ子  
多田直美

田中美美恵  
山田昌美

島本 大  
飛澤 仁

野木道子  
関 雄太

加園哲也  
金子直史

内田雄久  
関 やす子

古賀敬之  
ファンサイト㈱

小島孝雄  
㈱金芳

板谷厚子  
山瀬一男

小嶋龍汰  
池田憲男

池田松子  
熊澤 彰

熊澤美和子



高瀬和子

菊池正光  
竹熊信宏

日向啓子  
清水昭治

稲福正美  
藤田次郎

古賀法顕  
山崎昌樹

赤坂肴料理ちどり 渡部正一  
中島由紀子

植松裕史・恵以子  
北園秀文

秋山季久榮  
庭山香織

西村公次・香  
野本邦夫

野本あけみ  
野本竹春

渡邊彩香  
㈱サージューコーポレーション

岡崎利世  
永井啓之・節子

高村真弓  
フジモト薬局

渋谷徳雄  
真砂悦子

福田みほ  
高橋啓三



平成二十八年 回顧

一月	元日	若水祭 歳日祭	
三	三日	元始祭	
六	六日	第五十二回奉納書初展	
八	八日	舛添氏子崇敬会長参拝	
十五	十五日	神符焼納祭	
二十	二十日	神社本庁総長・副総長参拝	
二十三	二十三日	第五十四回神宮初詣旅行 至二十四日	
二十六	二十六日	新年互礼会	
二月	三	三日	節分祭
十一	十一日	紀元祭	
十四	十四日	八坂神社 猿田彦神社 仮殿遷座祭	
十七	十七日	祈年祭	
三月	二	二日	第六回責任役員会
			第五回神社総代会
			氏子崇敬会評議員会
			春季皇霊祭遥拝
四月	三	三日	第五十一回日枝神社奉賛青年会 年次総会
			昭和祭
			末社山王稲荷神社例祭



節分祭



ひとり翁奉仕



山王橋に溢れる御参拝の方達

五月	四	四日	御神田 田植祭 於千葉県香取市
			第二回祭典委員会
			八坂神社 猿田彦神社 本殿遷座祭
六月	三	三日	第七回責任役員会
			第六回神社総代会
			責任役員・大総代会合同会
七月	七	七日	山王祭
			八坂神社例祭並竣工奉祝祭
			神幸祭
			例祭
			大祓並鎮火祭
七月	二十	二十日	緑蔭朝詣りとラジオ体操の集い開会 奉告祭
八月	三	三日	責任役員会
			第三十九回善感謝祭
			御神田 拔穂祭 稲刈作業
			於千葉県香取市
			山王鍋会
			緑蔭朝詣りとラジオ体操の集い閉会 奉告祭



例 祭



神幸祭・神符献上



神幸祭・駐輦祭

十二月 一 日 二十三日 三十一日	十一月 四 日 三 日	十月 七 日 十七日	九月 十五日 十九日 二十日 二十二日
大麻神札頒布始祭 天長祭 大祓並鎮火祭 除夜祭	新嘗祭 就任 小池百合子東京都知事 氏子崇敬会長 責任役員・大総代合同会 第七回神社総代会 第八回責任役員会 明治祭	第十六回武蔵野御陵清掃奉仕 神嘗祭遙拝	第四十九回中秋管絃祭 第五十一回敬老祭 第四十四回山王祖霊祭 秋季皇霊祭遙拝



中 秋 管 絃 祭



小池会長就任



箸感謝祭



新 嘗 祭

平成二十八年

# 山王祖霊祭

## 講話

日枝神社 権禰宜 松橋裕晃

本日は私の故郷の話を致します。墓参りの時のかわった風習がございましたので、少し紹介させていただきます。

私の故郷の青森県の津軽地方では、必ずと言っていいほどほとんどの家庭が盆の十三日、墓前にあるものをお供えします。皆様はお墓参りの時、お墓にはどんな物をお供えますか。果物やお菓子、おはぎやお花等が関東では一般的な物だと伺っております。青森の津軽地方では墓前にお弁当の折詰をお供えします。これは「法界折」といい、中身は「赤飯・タケノコやシイタケの煮しめ(筑前煮の様なもの)・漬物・果物少々」(肉や魚は一切使わない。精進料理の一種と考えられる。)を入れるのが一般的のようです。さらに、津軽の中でも一部では墓前にこの法界折を供え、ゴザを敷いて御先祖様と一緒に食事をする地域もあつたと聞いています。「法界」という語句を調べると、食物を神様・墓前・祖霊に供えること、また、その食物のこと、また転じて食物を入れる器を指すことがわかり、その行事は柳田國男の著書「先祖の話」にも登場します。「青森・岩手・秋田の三県に、今もまだ

弘く行われているホカイの行事、これなどは墓前の祭であつて明らかに食物を中心とし、(中略)：目に立つ特色は墓石の前にほかい棚を作つて、蒲や真菰で編んだ簀薦を敷き、その上にいろいろの料理を供える」とあります。ここでは、ホカイではなくホカイと呼ばれ、弁当の折詰というよりは「いろいろの料理を供える」とあります。この著書自体は昭和二十一年に執筆されたもので、この時点では「青森・岩手・秋田の三県に、今もまだ弘く行われている」ことがわかります。残念ながら、「法界折」自体はどのような経緯で津軽地方に根付いたのかは、詳しい資料が少なく、定かではありません。

さて、話題は変わりますが、私の生まれ故郷の津軽には「津軽衆」という言葉がございます。直訳すると「津軽の人」の意で、この言葉の使い方は東京の「江戸っ子」に似ています。「江戸っ子」といえば、粋でイナセだとか気が短い等のイメージが頭に浮かびます。それに対し青森で「津軽衆」といえば、  
・もつけ(目立ちたがり・盛り上げ役・世話好きな人・余計な世話焼く人)

・じよっぱり(強情な人・頑固者)  
・ちやかし(おつちよこちよい・あわてんぼう)

と云う様な性格が言われます。また、こういう話もあります。

・食事をしていて、おかずを一つ残して誰も手をつけない。(津軽の人は遠慮深い、人にあげたがる、食べさせたがる)

・待ち合わせの約束の時間より、何分も人によっては何時間も 早く到着し待ちくたびれている。(真面目、気遣い、心配性)

これらの様な場面に遭遇した時、青森では「なあ、やっぱり津軽衆だなあ」というお決まりの会話のやり取りが繰り広げられます。

話題は法界折に戻りますが、津軽出身の私から見ると、この風習には津軽の人の真心がこもっている様な気が致します。もちろん、これには何の根拠もございません。津軽の人の世話好きで、律儀で施したがる性格でしょうか。どこかあたたく、ほっこりとした思いがいたしたか、墓前に折詰が供えられている事は、故郷では当たり前風景で、私自身これまで何の気にも留めておりませんでした。改めて考えてみると、独特な習慣ではあります。津軽の人なりの先祖供養・先祖の祭りという事で大切にしていってほしいものだと感じております。

### 第五十二回奉納書初展

一、日時

平成二十九年一月六日(金)

午後一時より 奉告祭

引き続き 山王奉書会 (於 参集殿)

一、記念講演

講師 慶應義塾大学文学部

名誉教授 藤原茂樹先生

演題 「万葉の歌から

―手習いと恋―

### 節分祭

一、日時

平成二十九年二月三日(金)

午前十一時三十分 一回奉仕

一、場所

日枝神社社殿前

一、奉仕料

お一人 金壹萬五千円也

お問合せ

節分祭係

電話 ○三三三五八一―二四七一

# 篤志奉納



## 四神旗 一式

株式会社 アルファビデオ

青山 裕生 殿

平成二十八年十一月二十二日 奉納

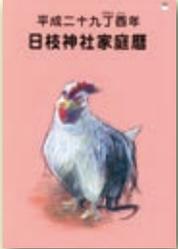
# 拔穂祭執行



八月二十日(土)、千葉県香取市の御神田に於いて拔穂祭が執行されました。当日は天候にも恵まれ氏子崇敬者多数の参加のもと稲刈り奉仕を行いました。収穫した新穀は、十一月二十三日の新嘗祭にお供えされました。

# 日枝神社家庭曆上梓

「平成二十九丁酉年 日枝神社家庭曆」。表紙絵は当社木村巫女の作画によります。現在二百円にて頒布中です。



## 「日枝神社広報大使」に岡田結実さん



今年度の日枝神社広報大使にタレントの岡田結実さんが就任されました。10月13日(木)に就任式を行い、多くの報道陣に囲まれ、七五三の思い出を語りました。なお、広報大使として年末には東京

メトロ全線の車内ビジョンにて当社初詣広告、周辺駅構内のポスターに出演され、2月3日の節分祭には特別年役として参列を予定しています。

## ピーポくん 出動



10月15日(土)平成28年全国地域安全運動の一環として、警視庁マスコットのピーポくんが来社しました。

当日は、七五三と結婚式で賑わう境内にて麹町警察署員の皆さんと広報活動を行いました。

## 麹町消防少年団 来社



11月13日(日)麹町消防少年団の皆さんと東京消防庁マスコットのキュータクくんが火災予防運動の広報活動を行いました。

# 山王台通信

## 就任

大手・丸の内地区

大総代 岡村 好貴 殿 三菱地所株式会社 (平成二十八年六月三日付)

日本橋六の部地区

大総代 野永 喜一郎 殿 株式会社ゆめかり (平成二十八年六月三日付)

九段地区

大総代 池田 新一 殿 ファーマシー池田 (平成二十八年八月三日付)

## 転任

権禰宜 木村 誠治

千葉県 玉前神社権禰宜に転出

(平成二十八年七月三十一日付)

## 新入職員紹介

〔嘱託〕 奥嶋 知稔

(平成二十八年六月二日付)

〔嘱託〕 川邊 義喜

(平成二十八年十月一日付)

## 〈通巻百二十九号〉

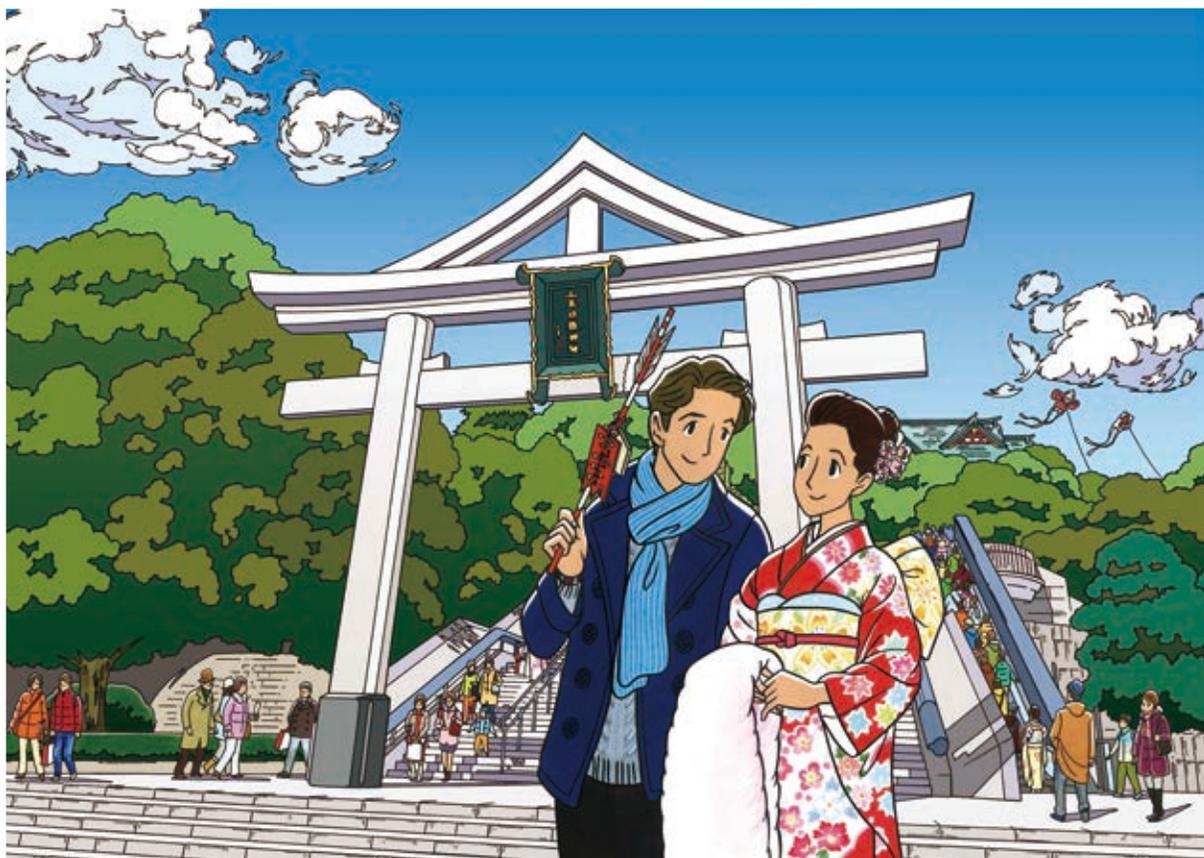
発行 平成二十九年一月一日  
編集 日枝神社社務所

東京都千代田区永田町二丁目十番五号

(郵便番号 100-0004)

TEL 03-3581-2471 (代表)

FAX 03-3581-2077  
http://www.hiejinja.net/



©わたせせいぞろ

## 平成 29 年厄年表 (数え年)

### 男の厄年

前 厄	本 厄	後 厄
24歳 平成 6 年生 いぬ	25歳 平成 5 年生 とり	26歳 平成 4 年生 さる
41歳 昭和 52 年生 み(へび)	42歳 昭和 51 年生 たつ	43歳 昭和 50 年生 う(うさぎ)
60歳 昭和 33 年生 いぬ	61歳 昭和 32 年生 とり	62歳 昭和 31 年生 さる

### 女の厄年

前 厄	本 厄	後 厄
18歳 平成 12 年生 たつ	19歳 平成 11 年生 う(うさぎ)	20歳 平成 10 年生 とら
32歳 昭和 61 年生 とら	33歳 昭和 60 年生 うし	34歳 昭和 59 年生 ね(ねずみ)
36歳 昭和 57 年生 いぬ	37歳 昭和 56 年生 とり	38歳 昭和 55 年生 さる

## Bridal Fair 総合婚礼展示会

- 平成 29 年 2 月 11 日(土) 10:00~18:00
- 平成 29 年 2 月 12 日(日) 10:00~17:00

婚礼相談、館内や境内の見学、披露宴会場見学、衣裳展示、試着、引出物、引菓子展示ほか



日枝神社  
結婚式場

日枝 あかさか

東京都千代田区永田町 2 丁目 10 番 5 号  
TEL.03-3502-2205 FAX.03-3502-8948  
<http://www.hieakasaka.net/>